

## 貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消に向けた行政×NPO×企業の連携・支援ネットワーク構築事業

取組開始時期	2019年12月	取組の カテゴリ	児童福祉	応募部門 (○を付ける)	◎	PF会員間連携部門	一般部門
1. 団体名	NPO法人チャリティーサンタ		2. 連携先の 団体	◎岡山市（こども福祉課、市民協働企画総務課、ESD・市民協働推進センター） プログラム提供企業(複数企業あり。裏面事例集を参考)			
3. 取組 目的	生活困窮家庭やひとり親家庭の子どもたちの参加しやすい体験活動の機会を増やし、子どもの自己肯定感を高め、親の不安や孤独感の解消に資することで子どもの貧困解決につなげる。					4. 関連する ゴール	 

### 5. 取組経緯

子どもたちの7人に一人が相対的貧困の状況にあり、家庭の経済的貧困が子どもたちの未来の選択肢を狭め、貧困が世代を超えて連鎖する現状が社会課題となっている。その要因の一つとして、困窮家庭の社会的な孤立や、子どもたちの学習や体験の格差があり、そのことによる自己肯定感の低さがあげられている。令和元年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業において、ひとり親家庭の孤立と、体験活動機会の不足が明らかになった。

### 6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

行政担当課とNPOが連携し「貧困家庭の子どもが体験不足となっている」という調査を行った。さらに対象家庭のニーズも把握し、企業が持つ資源を有効活用し、親子向け体験プログラムの開発・実施支援を行う。



貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消に向けた行政×NPO×企業の連携・支援ネットワーク構築事業

### 取組のポイント（3つの視点）

#### 地方創生SDGsの視点

経済的貧困を連鎖させないためには、ひとり親家庭の孤立解消と特に乳幼児期や学童期の子どもの心の安定と自己肯定感の醸成に寄与する支援方策が求められる。「思い出に残る体験」という幼少期の子どもを持つ家庭のニーズに応えながら、企業など地域資源の掘り起こしを行うことで、より豊かな人材と活気ある地域の創生に貢献すると考える。

#### ステークホルダーとの連携

- 支援対象者（児童扶養手当受給世帯や生活保護受給世帯等）への情報登録への呼びかけを行うことで、必要な層への適切な声かけを行うことができた。
- 自社事業を通じて価値提供をしてくれる企業と協働し、ニーズに合った新しいプログラム構築を行うことで、新たな支援層の拡充を行なうことができた。

#### モデル性・波及性

自社事業を通じて価値提供をしてくれる企業と協働し、プログラム構築を行っている。実施したプログラムは、ステップや仕組みをわかる形で報告にまとめ、参考になるよう、プログラムやモデルは積極的に公開する（新規の企業・団体が取り組みやすく）。今後他地域での展開へ注力する。

## 7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

「貧困家庭の子どもの体験不足」という社会課題の解決に関心のある企業に対し、NPO（チャリティーサンタ）が家庭ニーズを踏まえて、積極関与を行うコーディネート業務や、家庭の申込受付・管理、コミュニケーションなどの運営補助を行っている。困窮家庭へ声かけは行政と協働することで、適切な対象にダイレクトにアプローチができ、アンケート等でニーズ確認も行った。企業などの支援側の課題としては「適切な対象がわからない（＝対象家庭へアプローチができない）」「自社の強みを生かした支援を考えても、ニーズに照らし合わせた企画がわからない（＝企画が作れない）」「通常業務もある中で、細やかな家庭対応までは行うことができない（対応できるかわからない＝不安）」というものがあり、それらを補助する形で運営をしてきた。（本ページ最下部の事例紹介を参照）現在は事例をモデルとして紹介しながら「参加できる企業を増やすこと」「実施できるエリアを拡大すること」を目指し働きかけている。

### 洋菓子店の事例

- 01 誕生日ケーキを困窮世帯に届けたいと考える。
- 02 自店舗でプレゼントのケーキ台数を決定、困窮世帯へ広報開始。
- 03 予想以上に希望が多く集まったが、全てに対応することは困難。また遠方への対応は受け取りの関係上、難しい。
- 04 寄付の集め方や、他のケーキ屋にも取組を拡大できるように現在検討中。



### 行政

個人情報（所得や家族構成）により対象家庭へアプローチ可能

助言 ↑ 仕組み化提案

↓ 広報

### NPOチャリティーサンタ

実務と全体コーディネート。家庭へ定期的に体験情報提供（メルマガ・LINE）により信頼を得る。アンケートによるフィードバックとニーズ把握。

登録

← 週1回の情報配信

← 企業プログラムの募集

↓ 企画づくりサポート

### 貧困家庭

所得が少ないひとり親家庭や生活保護家庭など約2600世帯が登録。

↑ 体験企画の提供

### 連携企業

洋菓子店、アパレル企業、ジュエリー店、エステ店、お菓子問屋等

### アパレル企業の事例

- 01 「子どもの体験」として店舗内での「子どもの職業体験」を提案。
- 02 親子で楽しめる要素として職業体験中のお母さんのコーディネート企画もあがった。しかし、「店舗内で実施の際、一般客の目が気になること」や「買うことができない親の気持ちなどを考え、企画を練り直す。
- 03 アンケートから「古着提供」のニーズなどを把握。  
※「アパレル店員の古着」という付加価値をつけ、対象の親子をエンパワメントすることを意識した形で企画を再度検討。
- 04 実施後アンケートから、プログラムが好評であったことを把握。プログラムの継続・発展（他店舗への拡大）について社内でも検討中。



詳細はこちら（事例集URL）：<https://bit.ly/3nONSTA>